

職場の年齢構成の「ゆがみ」と課題
—企業における労務構成の変化と労使の課題に関する調査研究報告書—

企業における労務構成の変化と労使の課題に関する調査研究委員会

主査	戎野 淑子	立正大学経済学部教授
委員	村杉 靖男	法政大学大学院特任研究員
	藤波 美帆	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構調査研究員
オブザーバー	大木 栄一	玉川大学経営学部教授

※2014年5月末現在の役職名。

1947年から49年に生まれたいわゆる「団塊の世代」は、退職年齢にさしかかる中で、2013年4月からは改正高年齢者雇用安定法の施行により高年齢者の雇用の維持・継続が大きな課題となっている。一方で、若年労働力が減少する中で、バブル崩壊やリーマンショックにより、この約20年の間、新卒採用抑制などが行われてきた。企業においては、これらの影響で、職場の労務構成（年齢構成）が大きくゆがむなどしており、高年齢者については、如何にして職務を確保していくのか、中堅層については、業務が集中する中、期待される中核的な人材や若年層の育成への役割をどう果たしていけるようになるのか、若年層については、如何に技術・技能を伝承していけるかなど、大きな課題となっている。

そこで、バブル崩壊後約20年の間の職場の労務構成の変化、高年齢者、中堅層、若年層それぞれにおける課題や年齢層相互間の影響やその関連など、さらにはこうした変化や課題への労働組合の対応などについて、上記研究委員会を設置し、労働組合に対するヒアリングやアンケート調査を実施した。

これらのヒアリングやアンケート調査により、高年齢者を始め各年齢層それぞれにおける課題や年齢層相互間の課題などについて、労働組合などがどのように対応しており、また、どのように取り組みを行っていくべきかについて検討を行い、その成果を報告書に取りまとめた。

目次

第Ⅰ部 総論

はじめに

第1章 調査研究の目的と意義

第2章 調査結果の概要

第3章 今後の課題

おわりに

第Ⅱ部 分析編

第1章 「労務構成の変化と労使関係」に関するアンケート調査結果の分析

第2章 「労務構成の変化と労使関係」に関するヒアリングによる分析

第Ⅲ部 資料編